

宝の箱

ゆり組 西勝紀子

11月9日の降園前の事です。お当番さんが整列し「さよなら」の歌をうたおうとした時、事件は起こりました。「それ、Aちゃんのだよ」とA君がB君に抗議。見るとB君の手にはブドウの入っていたと思われるダンボール製の箱が…。「違うよ、Cちゃんのだよ」とC君。そうです、確かに先程まではC君が持っていたのです。

とにかく他のお友だちは先に「さよなら」をしてもらう事にし、三人の話を聞いてみました。

午前中はA君がその箱で遊んでいた事も分かりました。全員「自分が所有者」だと譲りません。そこで、その箱をよ〜く見せてもらい「これ、紀子先生のだよ」と言ってみると「違う！」と三人揃って猛抗議。で、ふと気付いたのです。C君「あーそっか、誰も名前書いてないから仕方ないねえ」

B君「じゃあ、三人の箱にして一日ずつ持って帰る？」ここで全員同意。

私「順番はどうするの？」

B君「ジャンケンにしよう」

A君「負けた者が勝ちジャンケンにしよう」(負けず嫌いなA君ならではの提案です)という事で箱に三人の名前と順番を記し、一日ずつ持ち帰ることに決まりました。やれやれ…。

ところが2週目に入り、箱を持参して登園したA君「B君C君は持って来るの忘れたし、たくさん(箱が)お家にお泊りしたんだよ、だからAちゃんさ、持って来たけど今日も持って帰りたい」との訴え。そこで私と一緒にその気持ちを伝えに行きました。するとB君C君は「いいよ」と快諾。またそのブドウ箱を持って三人仲良くお砂遊びを始めました。私は胸を撫で下ろしたものの、暫くして気になり様子を見に行くと、何と！大切なはずの箱に内側が前日の焼芋大会の残り炭でまっ黒。炭で絵が描ける事を発見したB君が、つい好奇心から着色してしまったのです。「子どもらしいなあ」とほほえましく思いつつもA君C君が何と云うか内心ハラハラ。お片付けの時間になりふと見ると、何と、何と!!B君が手洗い場で石鹸をつけ水でゴシゴシ箱を洗っているではありませんか。まっ黒な炭はきれいに落ち、箱の底は薄くなり、段ボールはベロベロ…。周囲で見ていた子ども達から「これは紙でできてるから破れるで」「もう使われへんで」「すぐ乾かしたら大丈夫や」との声が上がりました。A君がどこからか30cm程の枝を調達し、箱に数ヶ所開いていた穴に差し込み「先生これで干して」と必死な顔。でも、うまくバランスがとれずにいるとDちゃんが「何か紐みたいなので吊るせばいいんじゃない」と提案。私が荷作り用の

紐を持ってくると「それぞれ！」と言い穴に通し輪にして更にA君の枝もくくり付け、向って左側のブランコを掛ける位置に箱を吊るす事にしました。「さわらないで、かわかしています」との紙が貼られ静かな園庭で風にユラユラ揺れる様はまるで明石名物の干しダコを想起させる風情。

お弁当を終え園庭に出て来たブランコ大好きなはと組さんもこの奇妙な光景を目にし、それぞれのお心で受け止めてくれ右側のブランコ一つを仲良く譲り合って遊んでくれていました。また、さすがのほし組さんは「あのな、この紙は触ってもいいねん。でも箱は触ったらあかんねんで」とお友だちに伝え合い「きつとゆり組で何か訳あってこうなってるんやなあ」と思いやりのお心で受け入れてくれていました。みんなを巻き込んだブドウ箱、一体いつまで三人のお家を巡るのでしょうか。「先生、いつまで続けたらいいのですか？」とお母様から尋ねられました。「徹底的にやって下さい」と私はお応えしました。本人達が「もういい」と言うまで？飽きるまで？ボロボロになり形が無くなるまで？自然消滅？正直言って私も終着点は分かりません。でも、子どもが「大切」と思い「宝物」と思っている物はこちらも本気で「大切」にしてあげたいのです。三人にとっては大切な宝の箱。そして、その宝の箱から溢れ出るあたたかな輝きを周囲の子ども達は確かに感じとっているのです。本当に素敵な子ども達だと思います。錦江幼稚園に集う子ども達とご家庭の上に、まことの光イエスキリストの祝福を祈りつつ、心からクリスマスをお祝いしたいと思っています。